



▲刈り取った稲穂を手にした児童。収穫の喜びをわかちあいました。

出合小で稲刈り体験

10月12日、出合小学校5年生が学校近くの田んぼで稲刈りを体験しました。鎌かまを持つのは初めてということで、最初はぎこちない手つきだった児童も、やがて要領を得て手際よく穂を刈り取っていきました。収穫したお米は給食や調理実習で活用され、大地の恵みを味わう予定です。



▲初めて見るキジに興味津々の園児たち。

キジの放鳥

10月23日、江汐公園で猟友会によるキジの放鳥が行われました。はじめて見る野鳥の姿に参加した日の出保育園の園児も大喜び。空に放たれた40羽のキジはあっという間に江汐の森に飛び去っていきました。名残惜しそうに見送った園児は残ったはねをひろい集めていました。

夢
いっぱい!

ガラスの中に見えるのは 心に描く理想のフォルム



「第3回現代ガラス展 in 山陽小野田」で
大賞を受賞した

あ び る し ょ う ご
阿比留 生吾 さん

「第3回現代ガラス展 in 山陽小野田」で大賞を受賞した阿比留生吾さんの「フォルム 2006」は、美しい曲面と素材のガラスがもつ淡い緑色が印象的な作品です。同展の審査会では「その技術、表現、完成度、どの点をとっても素晴らしい」と審査員をうならせました。

もともと彫刻家として創作活動に打ち込んでいた阿比留さんがガラスと出会ったのは、今から8年前。作品の可能性を高めよう素材としてのガラスに興味を持ったのが始まりでした。「ガラスという透明な素材を通して、他の素材では表現できなかった部分を形にしたかったんです。」という阿比留さんが一貫して追い求めてきたのは「理想のフォルム」。心に思い描く形をガラスという新たな素材で表現したいと今日まで試行錯誤を続けてきました。

「8年をかけて築き上げてきた技術が、ようやく表現に迫いついてきました。作品もイメージに近づいています。」と語る阿比留さん。「フォルム 2006」は滑らかなガラスのボディーのその奥に、そんな阿比留さんのフォルムに寄せる熱い想いを宿しているようです。

「第3回現代ガラス展 in 山陽小野田」で展示された作品は、国民文化祭開催期間中（11月3日～12日）、引き続ききらら交流館で公開されます。



▲見るたびにその表情を変える阿比留さんの作品「フォルム 2006」